

別記様式第8号(別記1の第6の1、別記2の第5、別記3の第5、別記4の第6、別記7の第6の1の(1)関係)

鳥獣被害防止総合支援事業、鳥獣被害防止都道府県活動支援事業(都道府県広域捕獲活動支援事業)鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業及び鳥獣被害防止対策促進支援事業(中山間地域等鳥獣被害防止施設整備事業)の評価報告(令和5年度報告)

1 被害防止計画の作成数、特徴等

- 令和6年9月末現在、県内42市町村のうち35市町村において被害防止計画が作成され、鳥獣被害防止対策に取り組んでいる。
- 県内における野生鳥獣による被害は、農村の過疎化等に伴い中山間地域を中心にイノシシ、ニホンジカ、ニホンザルの被害が大きい。
- また、野菜や果樹ではカラス、水産業においてはカワウの被害が大きくなっている。

岐阜県

2 事業効果の発現状況

- 県内42市町村のうち33市町村で地域協議会が設置されている。そのうち29市町村において、鳥獣被害対策実施隊が設置されるなど、被害防止に取り組む体制づくりが進んでいる。
- 本事業により侵入防止柵の設置をした地域では、鳥獣による農作物被害が抑制され、また農業者自らが設置を行うことにより鳥獣被害対策への意識向上につながっている。
- 県活動により対策未実施集落等での防護と捕獲の一体的な対策の普及を図り、被害軽減につながっている。

3 被害防止計画の目標達成状況

- 評価の対象となった8市町村のうち、6市町で被害防止計画に定められた目標を達成又は概ね達成し、2市で目標の達成状況が低調となった。
- 侵入防止柵を設置した地域では、被害金額または被害面積が減少しており、本事業による一定の成果を得たが、その周辺地域等で被害が増加したことにより、被害金額および被害面積ともに目標を達成する市町村が少なくなったと推測される。
- 現地研修会等を通じて、地域ぐるみでの鳥獣被害対策の体制整備、国交付金を活用した捕獲体制強化等を推進することで、被害防止計画の目標達成を図る。

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

(1)令和3～5年度の被害防止計画に基づく評価

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	対象鳥獣	被害防止計画の目標と実績								事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
											被害金額(千円)				被害面積(ha)						
											基準値	目標値	実績値	達成率	基準値	目標値	実績値	達成率			
山県市鳥獣被害防止対策協議会	山県市	R3	イノシシ、ニホンジカ、ニホンザル、カラス、アライグマ	①緊急捕獲 ②侵入防止柵 ③捕獲サポート体制の構築	①イノシシ41頭、ニホンジカ375頭、ニホンザル15頭、カラス122羽、アライグマ18頭 ②金網柵L=100m ③研修会の開催、ニホンザル追い上げ作業傷害保険料	山県市鳥獣被害防止対策協議会	R3	侵入防止柵 100%	侵入防止柵の設置及び捕獲活動の実施により、被害金額については目標を達成できたが、被害面積については目標を達成できなかった。	イノシシ	3,943	2,602	6,510	-191.4%	11.32	7.40	19.10	-198.5%	データからみると鳥獣被害は、イノシシが一番多いが昨今サルの被害も地元の方から声をよく聞くようになった。様々な鳥獣対策を試みるも思うような達成率には至らずなかなか難しい。 また、猟友会員の高齢化による人員減少や新規の猟友会員も少ないため人手が減り被害が増えていくばかりである。今後、目標を達成できるように協議会としても各農家としても獣害被害が減るように対策を検討していく必要がある。	一時減少していた鳥獣被害も再び増加傾向にあり、農家から被害の報告や、鳥獣の出没の話をよく聞くようになった。 防護柵設置後の管理が適切に行っている圃場への鳥獣の侵入は抑えられているが、防護柵が破損した箇所や未設置の圃場への侵入は引き続き発生している。防護柵を設置したことによる鳥獣の行動範囲の変化に対応するためにも、防護柵の延長や、見回りや補修といった設置後の管理についても行政からの指導と支援が必要だと考える。 また、有害鳥獣捕獲従事者の確保のための助成などは引き続き継続して実施し、人員の確保や、捕獲従事者の技術向上に努めていた。 協議会や各農家、捕獲従事者等の関係者のみならず、地域全体として鳥獣被害の防止に取り組むことが重要であるとする。	捕獲活動の実施及び侵入防止柵の整備により、野生鳥獣による農作物被害金額を減少させることができたことは評価できる。 一方で、被害面積が目標を達成することができなかった原因を分析するとともに、被害の減少に向けた取り組みを検討する必要がある。
		R4	イノシシ、ニホンジカ、ニホンザル、カラス、アライグマ	①緊急捕獲 ②侵入防止柵 ③有害捕獲 ④サル複合対策	①イノシシ158頭、ニホンジカ692頭、ニホンザル62頭、カラス232羽、アライグマ36頭 ②金網柵L=3,035m ③囲いわなの導入1基 ④電気式とめ刺し器1台、自動撮影カメラ3台		R4	侵入防止柵 100%	カラス アライグマ	0 0	0 0	0 0	100.0% 100.0%	0.00 0.00	0.00 0.00	0.00 0.00	100.0% 100.0%				
		R5	イノシシ、ニホンジカ、ニホンザル、カラス、アライグマ	①緊急捕獲 ②侵入防止柵	①イノシシ48頭、ニホンジカ46頭、ニホンザル0頭、カラス129羽、アライグマ7頭 ②金網柵L=1,353m		R5	侵入防止柵 100%	計26,843	計17,715	計18,920	86.8%	計28.9	計19.0	計38.9	-100.6%					
本巣市鳥獣被害防止対策協議会	本巣市	R3	ヌートリア、カラス、イノシシ、ニホンジカ、ニホンザル、ツキノワグマ	①緊急捕獲 ②侵入防止柵 ③有害捕獲	①ヌートリア12頭、カラス45羽、イノシシ19頭、ニホンジカ0頭、ニホンザル25頭、ツキノワグマ3頭 ②WM柵L=343.6m ③獣害ネット1基	本巣市鳥獣被害防止対策協議会	R3	侵入防止柵 100%	侵入防止柵の整備及び捕獲活動の実施を行ったが、被害金額及び被害面積については、目標値を達成できなかった。	ヌートリア	21	14	830	-1157.1%	0.00	0.00	0.19	-18700.0%	鳥獣被害対策現地研修会の実施、侵入防止柵の設置、有害鳥獣駆除、個体数調整等の被害防止策を実施している。 効果的な被害防止対策を実施するため、各農事改良組合に対し被害調査を実施し、鳥獣被害状況の把握に努めている。 有害鳥獣捕獲、個体数調整の取り組みを実施し、有害鳥獣からの被害の減少に努めた。しかし、侵入防止柵の設置や猟友会による有害鳥獣捕獲等の対策で一定の効果が出ているが、十分とはいえない状況である。今後は、現在行っている対策の効果をより高める施策と住民自らによる追い払い対策の更なる実施を進め、鳥獣被害に負けない地域づくりを推進する。	鳥獣被害アンケートから効果的な有害鳥獣捕獲等の実施を望む人が多い。 被害防止柵の設置は、集落での防護柵の設置が行われており、イノシシ等の被害が減少している。 獣害防止柵を設置しても、管理が不十分で効果が発揮できていない箇所もあり、集落や農家への指導が必要である。 今後は獣害防止柵の整備、鳥獣の個体数調整のみならず、農家、地域での獣害防止対策への更なる積極的な取り組みが必要である。	被害金額及び被害面積が、被害防止計画の目標を達成できていない。 侵入防止柵の未設置地区への設置啓発や効果的な設置などを取り入れ、侵入防止柵の強化が必要である。 次期被害防止計画の目標設定については、現状を踏まえた適正なものとなるよう指導する。
		R4	ヌートリア、カラス、イノシシ、ニホンジカ、ニホンザル、ツキノワグマ	①緊急捕獲 ②侵入防止柵	①ヌートリア7頭、カラス75羽、イノシシ30頭、ニホンジカ1頭、ニホンザル91頭、ツキノワグマ3頭 ②WM柵L=675.3m		R4	侵入防止柵 100%	ニホンジカ ニホンザル ツキノワグマ	2,330 120 1,110	1,630 80 780	3,630 2,560 0	-185.7% -6100.0% 336.4%	0.49 0.02 0.60	0.34 0.01 0.42	0.48 0.40 0.00	6.7% -3800.0% 333.3%				
		R5	ヌートリア、カラス、イノシシ、ニホンジカ、ニホンザル、ツキノワグマ	①緊急捕獲 ②侵入防止柵	①ヌートリア55頭、カラス107羽、イノシシ45頭、ニホンジカ0頭、ニホンザル45頭、ツキノワグマ2頭 ②WM柵L=267m		R5	侵入防止柵 100%	計12,071	計8,304	計19,290	-191.6%	計3.1	計2.4	計3.9	-127.0%					
海津市	海津市	R3	イノシシ、ニホンジカ、ニホンザル、ヌートリア、アライグマ、ハクビシン、カラス	①緊急捕獲	①イノシシ6頭、ニホンジカ163頭、ニホンザル15頭、ヌートリア74頭、アライグマ5頭、ハクビシン4頭、カラス20羽				捕獲機材等の導入及び捕獲活動の実施により、農作物被害金額及び被害面積については、目標値を達成できた。	イノシシ	2,687	1,860	628	249.0%	0.93	0.65	0.22	253.6%	鳥獣被害防止総合支援事業に取り組み、捕獲施設設置により捕獲圧を高めたことの影響により、農作物被害額及び被害面積を大きく抑え、被害防止計画による目標を達成できた。特にイノシシ、ニホンザルによる被害面積及び被害額は大きく目標値を上回ったため、個体数を減らすことができたと考えられる。	被害防止計画目標を、被害額、被害面積ともに達成されたことは非常に素晴らしいと思います。海津市被害防止計画に基づく対策の効果を確実に実施されたことによる成果だと思います。今後も農作物の被害、被害拡大にならないよう被害防止対策協議会、地元住民、農業従事者、猟友会等関係機関の連携により適切な被害防止対策が実施されればと思います。	農作物被害額が被害防止計画の目標を達成したことは評価できる。
		R4	イノシシ、ニホンジカ、ニホンザル、ヌートリア、アライグマ、ハクビシン、カラス	①緊急捕獲 ②誘導捕獲柵わな	①イノシシ3頭、ニホンジカ106頭、ニホンザル28頭、ヌートリア22頭、アライグマ7頭、ハクビシン13頭、カラス16羽 ②サル専用管理捕獲施設 1基				ヌートリア	183	125	113	120.7%	0.15	0.10	0.10	110.0%				
		R5	イノシシ、ニホンジカ、ニホンザル、ヌートリア、アライグマ、ハクビシン、カラス	①緊急捕獲	①イノシシ5頭、ニホンジカ102頭、ニホンザル116頭、ヌートリア17頭、アライグマ16頭、ハクビシン31頭、カラス10羽				アライグマ ハクビシン	6 513	4 355	8 496	-115.0% 10.8%	- 0.11	- 0.07	0.00 0.16	100.0% -125.0%				
養老町養老地区鳥獣被害対策協議会	養老町	R3	イノシシ、ニホンジカ、ニホンザル、ヌートリア、アライグマ、カラス、ハト	①緊急捕獲 ②侵入防止柵	①イノシシ5頭、ニホンジカ134頭、ニホンザル12頭、ヌートリア90頭、アライグマ28頭、カラス387羽、ハト27羽 ②WM柵L=960m	養老地区鳥獣被害対策協議会	R3	侵入防止柵 100%	侵入防止柵の設置及び捕獲機材等の導入及び捕獲活動の実施により、被害金額については目標を達成できたが、被害面積については目標を達成できなかった。	イノシシ	60	30	0	200.0%	0.21	0.10	0.00	190.9%	被害面積については減少は顕著であり、侵入防護柵の効果はあると考えられます。 一方被害金額については、ニホンジカ・ニホンザル・アライグマ・ドバトについては、総合評価の通りであり、被害防止計画の見直しや鳥類の捕獲方法の検討、駆除員の育成が急務だと思ふ。 被害対策防止協議会、地元住民、農業従事者、猟友会等の関係機関と連携することにより、適切な被害対策が実施されると考えています。	捕獲活動の実施及び侵入防止柵の整備により、野生鳥獣による農作物被害面積を減少させることができたことは評価できる。 一方で、被害金額が目標を達成することができなかった原因を分析するとともに、被害の減少に向けた取り組みを検討する必要がある。	
		R4	イノシシ、ニホンジカ、ニホンザル、ヌートリア、アライグマ、カラス、ハト	①緊急捕獲 ②侵入防止柵 ③有害捕獲	①イノシシ2頭、ニホンジカ126頭、ニホンザル20頭、ヌートリア157頭、カラス784羽、ハト13羽 ②WM柵L=720m ③サル用大型檻 1基		R4	侵入防止柵 100%	ヌートリア	297	148	41	171.8%	0.29	0.14	0.04	166.7%				
		R5	イノシシ、ニホンジカ、ニホンザル、ヌートリア、アライグマ、カラス、ハト	①緊急捕獲、シカ緊急捕獲 ②侵入防止柵 ③有害捕獲	①イノシシ2頭、ニホンジカ97頭、ニホンザル17頭、ヌートリア64頭、アライグマ38頭、カラス336羽、ハト8羽、シカ緊急捕獲:45頭 ②WM柵L=1,140m ③サル用大型檻 1基		R5	侵入防止柵 100%	カラス ドバト	508 11	254 7	366 65	55.9% -1350.0%	0.51 0.01	0.25 0.01	0.53 0.08	-7.7% 0.0%				
計	計1,201	計602	計987	35.7%	計3.0	計1.5	計0.9	137.3%													

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	対象鳥獣	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価		
											被害金額(千円)			被害面積(ha)							
											基準値	目標値	実績値	達成率	基準値	目標値				実績値	達成率
大野町鳥獣被害対策協議会	大野町	R3	イノシシ、ニホンジカ、カラス、サル	②侵入防止柵 ④ジビエ利用拡大	②カラス侵入防止用黒ワイヤー＋防鹿ネット(複合柵)L=408m ④保冷库2台	大野町鳥獣被害対策協議会	R3	侵入防止柵100%	侵入防止柵の設置及びジビエ利用拡大への取り組みの実施を行ったが、被害金額及び被害面積について、目標値を達成できなかった。	イノシシ ニホンジカ カラス	233 590 978	123 563 910	27 1,101 1,575	187.3% -1892.6% -877.9%	0.19 0.44 0.29	0.10 0.42 0.27	0.00 0.96 0.40	206.7% -2592.0% -536.5%	平成24年度より実施した侵入防止柵の設置が平成28年度に計画した全ての区域について設置が完了した。イノシシについては豚熱による数の減少により被害防止計画目標を達成することが出来たが、ニホンジカについては、当初はある程度被害を防止できていたが、近年侵入防止柵の設置困難な所からの侵入や個体数の増加により被害が多く目標を達成できていない。 カラス被害対策として、平成28年度にカラス捕獲檻を設置し、実績が伴ったため増設を平成30年度、令和2年度に行い捕獲体制を強化し、捕獲しているが被害が減少していない。また平成29年度には、防鳥テグス及びネット布設を実施した。これについては、布設したことにより鳥獣の被害軽減効果がみられるため、平成30年度から、これを強化した防鹿ネットとワイヤーによる被害防止複合柵の設置を行っている。 ニホンザルについては捕獲檻の設置やくり置により捕獲しているが、個体が増えて群れを形成しており、被害が増えてきている。今後は被害防止複合柵の設置継続の推進により、カラス及びニホンジカによる被害防止対策を行いつつ、ニホンザルに対しては、住民による追い払いや放任果樹の除去等の被害防止対策の普及をすすめ、捕獲隊と連携を図り、カラス、ニホンジカ、ニホンザルの捕獲を強化して被害の軽減に努めるものとする。	イノシシ被害については、被害面積、被害金額が目標値を下回っており、被害防止効果が認められる。引き続き、侵入防止柵の修繕等を行って防止効果を保ってほしい。 ニホンジカ被害については、被害額、被害面積が大幅に増加しており、捕獲などと併せて、効果的な対策を検討していただき、対策を講じてほしい。 カラス被害については、捕獲檻の設置は捕獲効果がでているので継続実施が必要。 複合柵の設置はこれまでの設置圏において効果が確認されており、今年度もカラス被害の発生が毎年コンスタントにあるので複合柵の設置についても継続実施が必要と思われる。 侵入防止柵、捕獲檻、複合柵等これまで、効果的な対策を実施されている。 生産現場では、様々な要因が生産意欲減退につながっているが、鳥獣被害はその中の要因のひとつになると思われる。特に近年は、サルの被害が顕著になっている。 今後も、継続的に支援いただくことを要望するとともに、それぞれの鳥獣で効果が高い資材等があれば、積極的に事業の中で取り組んでいただくことを要望します。	被害金額及び被害面積が、被害防止計画の目標を達成できていない。 侵入防止柵の未設置地区への設置啓発や効果的な設置などを取り入れ、侵入防止柵の強化が必要である。 次期被害防止計画の目標設定については、現状を踏まえた適正なものとなるよう指導する。
		R4	イノシシ、ニホンジカ、カラス、サル	②侵入防止柵 ④ジビエ利用拡大	②カラス侵入防止用黒ワイヤー＋防鹿ネット(複合柵)L=379m ④衛生管理技能向上研修	R4	侵入防止柵100%	ニホンザル	223	185	641	-1100.0%	0.06	0.05	0.15	-895.0%					
		R5	イノシシ、ニホンジカ、カラス、サル	②侵入防止柵、食肉処理施設	②カラス侵入防止用黒ワイヤー＋防鹿ネット(複合柵)L=1,074.7m 金属探知機 1基	R5	侵入防止柵100%		計2,024	計1,781	計3,344	-543.2%	0.98	0.84	1.51	-378.0%					
御嵩町	御嵩町	R3	-	-	-	-	-	-	捕獲活動の実施により、被害面積については目標を達成できたが、被害金額については目標を達成できなかった。	イノシシ	276	50	143	58.8%	0.46	0.10	0.10	100.0%	野生イノシシ対策は農業被害の軽減だけが目的ではない。2018年の発生以来全国の養豚業の脅威となっている豚熱対策においても有害捕獲は重要な柱である。捕獲目標を更に高める必要がある。	野生鳥獣による農作物被害面積を減少させることができたことは評価できる。 一方、被害金額が目標を達成することができなかった原因を分析するとともに、被害の減少に向けた取り組みを検討する必要がある。	
		R4	イノシシ	①緊急捕獲	①イノシシ170頭																
		R5	イノシシ	①緊急捕獲	①イノシシ191頭																
中津川市鳥獣被害防止総合対策協議会	中津川市	R3	イノシシ、ニホンザル、ツキノワグマ、アライグマ、カラス、カワウ、サギ	①緊急捕獲 ②侵入防止柵 ③有害捕獲 ④誘導捕獲柵わな	①イノシシ181頭、ニホンザル21頭、ツキノワグマ5頭、アライグマ21頭、カラス39羽、カワウ127羽、サギ47羽 ②WM柵L=16,390m WM柵＋電気柵L=3,294m ③中型捕獲檻21基、カラス檻 5基 ④ニホンザル大型捕獲檻1基	中津川市鳥獣被害防止総合対策協議会	R3	侵入防止柵100%	侵入防止柵の整備及び捕獲活動により、農作物被害金額及び被害面積について、目標値を達成できた。	イノシシ ニホンザル ニホンジカ	2,471 574 265	2,013 468 216	1,682 62 538	172.3% 483.0% -557.1%	1.50 0.22 0.29	1.22 0.18 0.24	0.73 0.03 0.63	275.0% 475.0% -622.2%	・侵入防止効果の浸透により、集落を大きく囲う形での侵入防止柵の整備が推進され、被害が減少傾向にあるが、イノシシ用(H=1,200mm)柵をニホンジカ等が飛び越える事例が見られること、また個体数が増加したこと起因し、ニホンジカの被害が増加している。 そのため、既存柵(H=1,200mm)の上に柵を追加するなどし、ニホンジカに対しても機能強化を図る必要がある。 ・大型捕獲檻によるニホンザル捕獲の推進等により、被害が大きく減少している。 ・ツキノワグマは最近目撃例が増加しており、農作物被害だけでなく遭遇時の事故にも繋がるので軽視できない恐れあり。 ・ニホンザル、カラスは危険察知の学習能力が高いため、その事を認識しながらワナや檻の有効利用をお願いしたい。 ・アライグマは以前に比べ、生息範囲が拡大していると考えられるため、被害面積は小さいが被害状況やその生態について情報収集が必要となる。 ・ヌートリアについては、今のところ被害面積は小さく行動範囲も限られているが、その生息域を徐々に拡大していく可能性があるため、今後の被害状況やその生態について情報収集が必要となる。	農作物被害額が被害防止計画の目標を達成したことは評価できる。	
		R4	イノシシ、ニホンザル、ツキノワグマ、アライグマ、カラス、カワウ、サギ	①緊急捕獲 ②侵入防止柵 ③有害捕獲	①イノシシ378頭、ニホンザル45頭、アライグマ58頭、カラス43羽、カワウ100羽、サギ48羽、ニホンジカ30頭 ②WM柵L=21,670m WM柵＋電気柵L=620m ③箱わな 12基	R4	侵入防止柵100%	ツキノワグマ カラス アライグマ	99 0 20	81 0 16	0 0 2	550.0% 0.00 450.0%	0.04 0.00 0.00	0.03 0.00 0.00	0.00 0.00 0.01	0.00 0.00 -600.0%					
		R5	イノシシ、ニホンザル、ツキノワグマ、アライグマ、カラス、カワウ、サギ	①緊急捕獲 ②侵入防止柵 ③有害捕獲	①イノシシ237頭、ニホンザル11頭、アライグマ34頭、カラス33羽、カワウ295羽、サギ68羽、ニホンジカ8頭、ツキノワグマ2頭 ②WM柵L=14,918m WM柵＋電気柵L=878m ③自動撮影カメラ14基	R5	侵入防止柵100%	ヌートリア	16	13	0	533.3%	0.01	0.01	0.00	500.0%					
恵那市有害鳥獣被害対策協議会	恵那市	R3	イノシシ2、ニホンザル、ニホンジカ、アライグマ、ハクビシン	①緊急捕獲 ②侵入防止柵	①イノシシ266頭、ニホンザル29頭、ニホンジカ257頭、アライグマ39頭、ハクビシン1頭 ②WM柵L=23,902m	恵那市有害鳥獣被害対策協議会	R3	侵入防止柵100%	侵入防止柵の整備及び捕獲活動により、農作物被害金額及び被害面積について、目標値を達成できた。	イノシシ サル ヌートリア	2,216 1 2	1,773 1 1	1,132 2 1	244.7% 0.0% 100.0%	16.30 0.10 0.10	13.10 0.10 0.10	9.70 0.10 0.10	206.3% 100.0% 100.0%	防護柵、電気柵、箱わなの計画的な投入により、被害防止目標の着実な達成率を得ることが出来ている。しかし今後、農家の高齢化による耕作放棄地の増加や、地球温暖化等によるニホンジカのさらなる生息域拡大が予想されることから、被害を受けた地域ごとの対応ではなく、全地域を対象に、場合によっては周辺市町村との連携も視野に入れ、野生動物の習性等を考慮に入れた対策を行う必要があるかと思われる。さらに、今後の対策立案においては、単に捕獲、侵入防止だけでは限界があることから、生息数をコントロールして行くという視点も取り入れて対策を取っていく必要がある。	農作物被害額が被害防止計画の目標を達成したことは評価できる。	
		R4	イノシシ2、ニホンザル、ニホンジカ、アライグマ、ハクビシン	①緊急捕獲 ②侵入防止柵 ③サル複合対策	①イノシシ544頭、ニホンザル47頭、ニホンジカ447頭、アライグマ55頭、ハクビシン14頭 ②WM柵L=42,540m ③サル捕獲檻 2基	R4	侵入防止柵100%	ハクビシン ニホンジカ アライグマ	13 368 13	10 294 10	103 219 25	-3000.0% 201.4% -400.0%	0.20 4.20 0.10	0.10 3.40 0.10	0.50 1.80 0.10	-300.0% 300.0% 100.0%					
		R5	イノシシ2、ニホンザル、ニホンジカ、アライグマ、ハクビシン	①緊急捕獲 ②侵入防止柵 ③有害捕獲	①イノシシ361頭、ニホンザル53頭、ニホンジカ642頭、アライグマ38頭、ハクビシン7頭 ②WM柵L=34,120m ③サル捕獲檻 1基	R5	侵入防止柵100%		計2,613	計2,089	計1,482	215.8%	計21.0	計16.9	計12.3	212.2%					
岐阜県	岐阜県	R5	カワウ、イノシシ、カラス、ニホンザル	①県活動支援事業 ②広域捕獲活動支援	①実施体制の整備、広域捕獲活動(有害捕獲) ②ニホンジカ471頭	岐阜県	-	-	ニホンザルの集落ぐるみでの捕獲体制整備を構築するため、専門家等を派遣し活動支援を行った。 広域的なカワウの飛来数調査を行い、カワウの生息羽数・行動域等を把握及び捕獲を行った。 市町の要請をうけ、ニホンジカの食害等が多い県西濃地域の生息調査及び捕獲を行った。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	ニホンザル対策として、専門家を派遣し集落ぐるみの捕獲体制の構築支援を行い、ニホンザルの捕獲等により農作物の被害減少に寄与している。 カワウ対策として、コロニーでのシューティングの実施により、アユを中心とする水産被害が減少した。 ニホンジカの生息調査によりニホンジカの生息が多いエリアを中心に捕獲を実施し、農作物被害の被害減少に寄与している。	・SDR調査等からシカの密度が県内でも高い地域を対象としている。さらに、前年度に糞塊調査やカメラトラップ調査を通して、当該地域におけるシカの分布状況を事前に把握した上で、捕獲を実施している。これは調査を基にした計画的な捕獲事業と見ることができる。 ・捕獲地域ごとの努力量が不明であるが、一定と仮定すると、密度が比較的高いメッシュが多く含まれる本県市で多く捕獲され、低いメッシュが多く含まれる揖斐川町で本県市の約6割の捕獲数だったことは妥当な可能性がある。 ・一方、メッシュ毎の密度の高低が明らかになっていないにもかかわらず、捕獲成果の記載が市町村毎のまとめとなっている。そのため実際には、密度の高いメッシュで効果的な捕獲が行われたかは不明である。したがって、今後はメッシュ毎(必要に応じて市町村も含め)に捕獲頭数を記載すべきである。	-
																所属: 東濃獣医師会 氏名: 小林 直彦					
																所属: 岐阜大学 氏名: 鈴木 嵩彬					

(2)「令和5年度に作成した改善計画に基づく再評価」

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	対象鳥獣	被害防止計画の目標と実績								事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価		
											被害金額(千円)				被害面積(ha)								
											基準値	目標値	実績値	達成率	基準値	目標値	実績値	達成率					
土岐市鳥獣被害対策協議会、土岐市	土岐市	R2	イノシシ	①緊急捕獲	①イノシシ106頭	土岐市鳥獣被害対策協議会総会	—	—	侵入防止柵の整備及び捕獲活動の実施を行ったが、被害金額及び被害面積について、目標値を達成できなかった。	イノシシ	250	170	1,706	-1820.0%	0.43	0.30	1.56	-869.2%	土岐市南部など柵が設置された地区においては効果が見られるが、まだ市全域では対策が進んでおらず、住宅の側など山間部以外にも出没範囲が広がっていることもあり、いまだ被害は見受けられる	対策が実行された地域において効果は見られるが、その一方で広域にわたり被害はまだ存在している。範囲や深刻さについては地域によって違いがあるが、対策は一部の地域だけでなく、全ての地域に対して行われるべきである。出没の範囲が広がる中、解決に向けて今後も継続的な対策が必要となってくる。  所属:土岐市植物防疫協会 氏名:土屋 範典	被害金額及び被害面積が、被害防止計画の目標を達成できていない。侵入防止柵の未設置地区への設置啓発や効果的な設置(ほ場のまとりごと)にブロックで囲う)などを取り入れ、侵入防止柵の強化が必要である。次期被害防止計画の目標設定については、現状を踏まえた適正なものとなるよう指導する。		
		R3	イノシシ	①侵入防止柵 ②緊急捕獲	①WM柵 L=839m、電気柵L=1,567m、 電気柵L=300m						R3	侵入防止柵	計250	計170	計1,706	-1820.0%	計0.4	計0.3				計1.6	-869.2%
		R4	イノシシ	①侵入防止柵 ②緊急捕獲	①WM柵 L=677m ②イノシシ338頭						R4	侵入防止柵											
		R5	イノシシ	①侵入防止柵 ②緊急捕獲	①WM柵 L=822m ②イノシシ426頭						R5	侵入防止柵 100%											

- 注1:被害金額及び被害面積の目標値については対象鳥獣及び目標値を記し、これに合わせて他の欄も記載する。  
 2:都道府県が事業実施主体となる鳥獣被害防止都道府県活動支援事業を実施した場合、その事業内容等も記載すること。  
 3:事業効果は記載例を参考とし、獣種等ごとに事業実施前と事業実施後の定量的な比較ができるよう時間軸を明確に記載の上、その効果を詳細に記載すること。整備事業を行った場合、捕獲効率の向上にどのように寄与したかも必ず記載すること。  
 4:「事業実施主体の評価」の欄には、その効果に対する考察や経営状況も詳細に記載すること。  
 5:鳥獣被害防止施設の整備を行った場合、侵入防止柵設置後のほ場ごとの鳥獣被害の状況、侵入防止柵の設置及び維持管理の状況について、地区名、侵入防止柵の種類・設置距離、事業費、国費、被害金額、被害面積、被害量、被害が生じた場合の要因と対応策、設置に係る指導内容、維持管理方法、維持管理状況、都道府県における点検・指導状況等を様式に具体的に記載し、添付すること。

5 都道府県による総合的評価

侵入防止柵を設置した地域で農作物被害が減少し、捕獲機材の導入により捕獲頭数が増加するなど対策を実施したことによる効果が見られている。これまで被害が見られなかった地域における被害の発生や加害獣種の変化に伴い被害額、被害面積が大きくなっている状況があるため、引き続き国交付金を活用して侵入防止柵の設置、捕獲体制の強化、追払い等の取組を推進していく。